キャリア教育を取り入れた保健学習
―喫煙，飲酒，薬物乱用の防止と健康のつながりを通して―

浅井　千恵子　星尾　尚史　井上　文夫
（京都教育大学附属京都小学校）　（京都教育大学）

Health Education Including Career Education
－Through the Relation of Prevention of Smoking, Drinking and Drug to Health－

Chieko ASAI, Hisashi HOSHIO and Fumio INOUE

2009年11月30日受理

抄録：喫煙，飲酒，薬物乱用が低年齢化してきている現状の中で，生徒の生活の中では，テレビ,インターネット等のメデイアや雑誌等からいろいろな情報が入ってきている。生徒は興味関心で耳を傾け，たばこ,アルコール,薬物に関しての知識がないまま，それらを手にする危険性が考えられる。キャリア教育の考え方を取り入れた「病気の予防」の取り組みにおいて，身近な時期にある小学校６年の時期に，たばこ,アルコール，薬物について正しい知識を理解させ，喫煙，飲酒，薬物乱用の防止が健康につながることを理解させ,実践する態度を育てたいと考えた。そのねらいが達成できるように，喫煙・飲酒や薬物乱用が及ぼす体への影響を与えること,また一回の体験が依存症へとつながり，生涯にわたり苦しむ薬物乱用について理解させるとともに，自分の健康は自分で守るという意識を高めることで人間関係形成能力「自他の理解能力」の養成を図った。また，強い意思によって健康のためによい生活行動を自ら実践できることで意思決定能力「課題解決能力」の養成を図った。大人の中では，少しずつ喫煙率は下がっている中で，生徒は,先輩や友達などに誘われて喫煙，飲酒，薬物乱用の体験をする危険性がある。そこで，勧められたり，誘われたりすることに遭遇した場合の対処法を体験し，自分の意思をしっかり伝えて断ることが，健康につながることを理解することで人間関係形成能力「コミュニティ能力」の養成を図った。

キーワード：喫煙，飲酒，薬物乱用，成長期の影響，ロールプレイング，メッセージカード，キャリア発達能力

Ⅰ．はじめに

幼児期の心身のケア不足が青年期に影響していると言われている現状の中で，本校でも単に生活習慣の乱れによる体調不良より，最近は学習や人間関係のストレスによって起こると考えられる心身の不調を訴えて，心のケアを求める子どもたちが増えている。心が健やかであれば，楽しく元気に生活することができる。しかし，親の願いが高すぎるため，子どもへの負担が重くなる傾向がある。また子どもと時間をともにする大人が少なくなってきている。その結果，人とのかかわり（コミュニケーション）を経験することが少なくなっている。
その上，子どもたちの生活の中で，「なぜ勉強か」「遊べない」「運動できない」などの欲求不満が起こる。

本校では，キャリア教育を，１人の児童の育ちの中で，“夢や希望を持ち，生涯にわたって自らの進路を主体的に切り拓いていく力”をつけることとして捉え研究を進めている中で５年の保健学習の心の健康を通して　キャリア教育を取り入れた保健学習を研究し，平成１９年研究紀要に掲載した。

また，近年，生活習慣病のがん，心臓病，脳卒中などの罹患者が増えてきている。小学生にとっての生活習慣病としては，すぐに起こり得る，むし歯や視力低下や肥満などがあるが，成人してからの生活習慣病の基礎は小児期につくられる。そこで，３年の保健学習で取り上げられている「毎日の生活とけんこう」で，将来の生活習

慣につながるための生活の改善などを考えて，キャリア教育を取り入れた保健学習を研究し，平成２０年研究紀要に掲載した。

平成２０年研究紀要に掲載した生活習慣病と同様，最近，低年齢化で問題になっているは喫煙，飲酒，薬物乱用である。たばこ，アルコール，薬物に関しての情報はテレビ，インターネット等，漫画や雑誌などで生徒の情報として自然に入っている中で，たばこ・アルコール・薬物が体によくないものという漠然とした知識はあるが，それらの体に及ぼす過程や 具体的な症状や病気については，正しい知識を理解しておらず，興味関心をもっている子どもたちも多いと考えられる。

たばこはアルコールと並ぶ代表的な「入門薬物」といわれている。薬物を乱用する青少年のほとんどがたばこやアルコールをまず使用し,次第により危険な薬物の使用へと進んでいくことが多い。

本研究では，あと４ヶ月あまりで，中学生となり，行動範囲や付き合い方も広くなり，友情関係も深まり，喫煙，飲酒，薬物乱用を体験する機会に遭遇することが考えられる。そこで，本校の研究の一環としてキャリア教育を取り入れた６年保健学習の単元「病気の予防２」で喫煙，飲酒，薬物乱用の防止教育を実施し，「なぜ,飲んだら，吸ったらいけないのか」それぞれが及ぼす影響が特に,発育期の体験することでの起こる成長の阻害や長期の体への悪影響など理解させる。「誘われたり，勧められたりしたときどうしたらよいか」メッセージを考え，交流することやロールプレイングを体験することにより，強い意思で断ることが実践できるようにさせる。以上の２つのことを考慮してヘルスプロモーション（健康教育）の一部である防止教育と健康のつながりを研究課題とした。

Ⅱ．保健学習とキャリア教育

小学校での体育科(保健領域)として，平成13年度より３年生から保健学習が実施されるようになった。３年では「毎日の生活とけんこう」，４年では「育ちゆく体とわたし」，５年では，「けがの防止」・「心の健康」，６年では「病気の予防」の単元である。このそれぞれの単元で育てたいキャリア発達能力は以下の通りである。

(1) ３年単元「毎日の生活とけんこう」平成２０年２月～3月に実施

ねらい

・毎日の生活を振り返り，健康な生活が過ごせるための自分のめあてを考え，実践する。

キャリア発達能力　人間関係形成能力「自他の理解能力」・意思決定能力「課題解決能力」

(2) ４年単元「育ちゆく体とわたし」平成１９年２月から～3月に実施

ねらい

・体と心の成長を肯定的に受けとめ，よりよく育つために実践できるめあてを考え，実践する。

キャリア発達能力　人間関係形成能力「自他の理解能力」・意思決定能力「課題解決能力」

(3) ５年単元

「けがの防止」平成１９年１月～２月実施

ねらい

・身近な生活におけるけがの原因とその防止・手当てについて関心をもち，安全に生活できるように，自分のめあてを考え，実践する。

キャリア発達能力　人間関係形成能力「自他の理解能力」・意思決定能力「課題解決能力」

「心の健康」平成１８年９月～１１月実施（平成１９年度研究紀要で報告）

ねらい

・心の発達を肯定的に受けとめ，不安と悩みをかかえた時，自分にあった対処のしかたを見つける。

キャリア発達能力　人間関係形成能力「自他の理解能力」「コミュニケーション能力」
意思決定能力「課題解決能力」

(4) ６年単元「病気の予防」平成２０年１０月２５日～１１月１４日実施

ねらい

・生活習慣が主な原因となって起こる病気やその予防のしかたを理解し，実践する。

キャリア発達能力　人間関係形成能力「自他の理解能力」・意思決定能力「課題解決能力」

・喫煙・飲酒・薬物乱用の健康への影響を理解し，“やらない”という意思決定ができる。

キャリア発達能力　人間関係形成能力「自他の理解能力」「コミュニケーション能力」
意思決定能力「課題解決能力」

Ⅲ．病気の予防２を通して

６年の単元「病気の予防２」の学習を進めることで，喫煙，飲酒，薬物乱用の防止が，発育期や将来の健康につながることを理解させることで，次の２つのことを実践できるようにする。

・たばこ，アルコール,薬物のそれぞれが持つ性質や体に与える影響を理解することが健康な生活をするための課題解決へつながることを理解させる。

・喫煙，飲酒，薬物乱用が成長期に与える影響を理解し，誘われたり,勧められたりしたときに自分の意思を強くもって断れる態度を養うことが健康に過ごすことができることを理解させる。

1．単元「病気の予防２」で育てるキャリア発達能力

(1) 人間関係形成能力「自他の理解能力」

・たばこ，アルコール，薬物のもつ，３つのそれぞれに持っている種類や性質，含まれる成分や体への影響や発育期での影響などの特徴を習得することで，喫煙，飲酒，薬物乱用の防止と健康のつながりを理解する。

(2) 人間関係形成能力「コミュニケーション能力」

・喫煙，飲酒，薬物乱用の防止のためのメッセージを考え，交流することで，自他ともに予防できる態度やどのように断るかをロールプレイングで体験することで，誘われたり,勧められたりしたときに自分の意思をしっかり伝え，断る態度と必要性を理解する。

（3）意思決定能力「課題解決能力」

・喫煙・飲酒や薬物乱用が及ぼす体への影響を与えること，発育期に体験することで影響が深いアルコールやたばこ,また一回の体験が依存症へとなり，生涯にわたり苦しむことにつながる薬物乱用について理解させるとともに，自分の健康は自分で守るという意識を高め，強い意思によって健康のためによい生活行動を自ら実践できる，自分にあったためあてを気づかせる。

2．実施の概要

(1) 実施期間　　平成２１年１０月２５日～１１月１４日

(2) 対象学年　　６年い・ろ・は組

(3) 対象児童数　９８名

(4) 指導計画

たばこ，アルコール，薬物のもつ特徴・・・・・・・第１時間目

たばこ，アルコール，薬物のそれぞれの害・・・・・第２時間目

たばこ，アルコール，薬物をのまない，すわない・・・第３時間目

誘われたら君はどうする？・・・・・・・・・・・・・第４時間目

以上の指導計画に基づき，単元「病気の予防」の学習を実施した。それぞれの指導内容・評価については次に

詳しく述べる。

第１時間目　たばこ，アルコール，薬物のもつ特徴

喫煙，飲酒，薬物乱用の防止をするためには，まず，たばこ，アルコール，薬物についてのそれぞれの特徴を知ることが，防止のための入門知識と考える。そのために，調べ学習でたばこ，アルコール，薬物についてそれぞれの種類や性質，含まれた成分について内容をグループで出しあったものを共有し，自他ともにたばこ，アルコール，薬物の特徴を理解させる。

1．ねらい

・たばこ・アルコール・薬物のそれぞれがもっている種類や含まれる成分，その性質などの特徴があることを知り，それぞれに害があることを理解できる。

2．キャリア教育との関わりと評価

（1）人間関係形成能力「自他の理解能力」

・　たばこ，アルコール，薬物のもつ，３つのそれぞれに持っている種類や性質，含まれる成分の特徴を習得することで，喫煙，飲酒，薬物乱用の防止と健康のつながりを理解することができる。

3．指導内容

(1)導入で，たばこ，アルコール，薬物について，なぜ，法律があるか，発育期に学習するかを理解させる。

(2)展開で，

・たばこ，アルコール，薬物のそれぞれの成分・性質・種類について調べたことをグループで出しあいまとめて，発表し，共有する。

たばこについて

・葉巻，セブンスター，ぴーす，セブマイルドなど
・ニコチン（肺にたまる　血液の流れを悪くする）
・タール（肺にたまる　肺を黒くする）
・一酸化炭素
・猛毒・がんの原因になる
・血管を縮める・酸素不足になる

アルコールについて

・アルコールには，種類によってアルコール度が違う
・ワイン，酒，ウイスキー，焼酎，ブランデーなど
・脳の働きの低下（脳の細胞を壊し老化へ）
・　注意力や判断力がにぶる
・　一気飲みにより意識なくなる・呼吸が止まる



図１たばこ，アルコール，薬物の特徴

薬物について

・シンナー，大麻，覚せい剤，麻薬（コカイン，ＬＳＤ，ヘロイン，あへん），エス，スピード，コーク
・有機溶剤・脂肪分を溶かす・幻覚・妄想・歯が解ける・依存症・フラッシュバック
・シンナーの症状は覚せい剤でも出る

(3)自分がたばこ，アルコール，薬物に種類や含まれる成分，その性質があることを知りそれぞれに害があることを理解できる。

4．学習の結果

「たばこ・アルコール・薬物のもつ特徴」の学習を振り返って

子どもたちは学習でわかったことを主に以下のことをあげていた。（一部を掲載）

・たばこ・アルコールは共に体を悪くし（肺，脳）薬物はいろんな名前がついているのでだまされやすい。

・薬物は自分が自分でコントロールできなくなる。
・前，ドラッグのお店に行ったときに，年上の友だちが「マニキュアにもシンナーが少し入ってんねんで」と言いました。この学習をして案外身近なとこにシンナーはあるんだなーと思いました。
・父や母は，お酒をふつうに飲んではったけど，今日の学習で，体に悪いことを知ったので、あまり飲まないようにしようと思った。大人になったら，アルコールはとるかも知れないけど，たばこや薬物はぜったいにすまんとこと思った。
・たばこで，吸っている人は，３０％外に出ているのが７０％というのが驚きました。肺がんになるのは知っていたけど，あんなに真っ黒になることは思っていなかったです。
・お酒は脳の機能を低下させると聞いてびっくりしました。たばこを吸っている人は自分だけじゃなくて他の人にも迷惑をかけるので，駅などで禁煙化が勧められていいと思いました。
・たばこには，２００種類以上も有害な物質があることがわかった。
・法律で決められている（１８才，２０才以上禁）のが何でかがよくわかった。今はたばこでは「タスポ」で未成年者は吸えないようになっているけれど，とても子どもの体に悪いということがわかった。
・アルコール，たばこ，薬物にはそれぞれの性質があり，「依存症」「脳への障害」などがあるのがわかった。脳の働きが鈍くなり，大人になってからの影響も強いので，たばこ，アルコールは未成年者は禁止されていると思う。
・薬物の種類がとても多くて薬とかを買うときに気をつけようと思った。大人になってもたばこは吸わないようにしようと思った。

５，考察

たばこ・アルコール・薬物のもつ特徴の学習を行っていく中で，子どもたちは，たばこ・アルコール・薬物のそれぞれがもつ種類や性質や含まれた成分を知ることで，３つのことを経験することが健康への阻害に深く影響することを理解したようである。また，今の成長期に経験してはいけないという意識づけのきっかけにもなったようである。

第２時間目　たばこ・アルコール・薬物のそれぞれの体や発育期への影響

なぜ，発育期に喫煙，飲酒，薬物乱用を体験するのが悪いか，たばこの水や生水で育てたかいわれ大根の育ちを記録をみることで成長の阻害に関係し，またがんや心臓病などの成人病の発病率や死亡率などで体の影響はどうなのかを資料や実験で科学的に理解させたい。そこで，自分自身が防止するためにがんばれるめあてを考える。

1．ねらい
・喫煙，飲酒，薬物乱用による，体への影響と発育期での影響について理解できる。
2．キャリア教育との関わりと評価
(1) 人間関係形成能力「自他の理解能力」
・たばこ，アルコール，薬物による，体への影響と発育期での影響について理解できる。
(2)意思決定能力「課題解決能力」
・発育期での影響が強く，将来にわたり体へ害を与えることを理解し，自分自身が防止するためのめあてを考え実践できる。
3．指導内容
(1) 導入では，たばこ，アルコール，薬物がもつ成分や性質を確認し，それらが与える体への影響や発育期に学習する意図を確認させる。

(2) 展開では，グループで，たばこ，アルコールが与えるすぐ出る影響と長く続けることで出てくる影響があること，薬物が与える体と心への影響をまとめ，発表し共有する。

たばこ	アルコール	薬物
吸ってすぐ出る影響 歯がよごれる　めまい 運動能力の低下　食欲がなくなる 心臓がドキドキ　肌が荒れる 思考力の低下	飲んですぐ出る影響 足がふらつく　吐き気がする 言葉がはっきりしなくなる 歩けなくなる　死ぬことがある 呼吸が止まる　脳が縮む 意識がはっきりしなくなる アドレナリンを減らし，怒りやすくなる 思うように体が動かない	体への影響 歯が解ける　目が見えなくなる 脳が小さくなり，思考力や判断力が鈍くなる 手足がしびれる　依存症になる 肺，肝臓がきずつく 実際似ないものが見えたり，聞こえたりする 一回の乱用で死ぬこともある
吸い続けて出る影響 肺がん，口腔がん　食道がん　胃がんなどになる 心臓病になる 歯がよごれる　肌が荒れる 血管が縮む	飲み続けると出る影響 内臓が痛みやすい 手足のしびれ　心臓や肝臓の病気 口，のど，食道などのがん お酒を飲まないと手が震える 性格の変化 イライラするなどの症状が出る 意欲がおとろえる	心への影響 やる気が出ない　いらいら　不安 幻覚や幻聴が見える 最初満足後苦しみになる 暴力，盗みが働く

(3) なぜ，発育期に吸ったり飲んだりすることが体によくないかを理解する。

たばこ	アルコール
発育期への影響 影響を強く受ける 早死にしやすい 吸っている時間が早いとがんや心臓病になりやすい 成長期への阻害	発育期への影響 肝臓や脳に障害が起こりやすくなる 脳の働きが低下する 物事に取り組む意欲がおとろえる

・薬物に手を出すきっかけには，断れない，好奇心から，面白くなくて，恐いことだと知らないでなどがあることを知る。



図２体や発育期への影響の交流

４，学習の結果

「たばこ，アルコール，薬物のそれぞれの体や発育期への影響」の学習を振り返って子どもたちは学習でわかったことを特に発育期への影響について次のように挙げている。(一部掲載)

・たばこやアルコールは発育期の影響を強く受けるということがよくわかりました。
・すべて，断って関わらないことがとても大事だとわかった。共通していることは「どれも手はださないこと」ということだと思います。
・身も心もぼろぼろになってしまう。死ぬ確率が高くなる，人生がエンジョイできなくなる。
・発育期に使ったりすると成長しなくなったりすることが，わかったので絶対に使ったり吸ったりしないと思いました。
・たばこ，アルコール，薬物ともに誘われてついつい手を出してしまって，最初は気持ちよくなったり，１回

だけと思って結局，癖になり止められなくなって悪い影響が体に及んでしまうんだと思いました。
・強い意思で断ることが大切だと思いました。がんになったりして恐いなあと思いました。

5，考察

たばこ，アルコール，薬物のそれぞれの体や発育期への影響の学習を行っていく中で，第１次で習得した，それぞれの特徴によって，及ぼす体や発育期へ影響を与えることを調べ学習や教師が提示した資料やニコチンの実験，かいわれ大根の成長の記録などで科学的に示すことで，十分に理解できたようであった。その結果，今までの喫煙，飲酒，薬物乱用へ思いや考えが少し変わってきたようであった。

第３時間目　たばこを吸わない，アルコール，薬物を飲まない

第２次で，子供たちが事前に調査した個々に考え，選んだ，喫煙（たばこ），飲酒（アルコール）薬物乱用の３つのグループに分かれて，たばこ，アルコール，薬物のそれぞれの成分などの特徴や体に与える害，発育期での影響などを取り入れたグループとしてのメッセージやせりふを考える。そのメッセージの内容とポスターや断るときのせりふで，自他とも喫煙，飲酒，薬物乱用が防止でき，誘われたり勧められたりしたとき，自分たちの健康を考え,強い意思で行動できるように考えた。メッセージとは，自分からの気持ちを伝えることで，相手にメッセージを伝えたとき，相手がさせられているという強制の気持ちにならず心から考えてみようと気持ちに慣れるようになるメッセージである。また，誘われたり，勧められたりしたとき強い意思で断れるせりふを考えた。

1．ねらい

・喫煙・飲酒・薬物乱用が与える体への影響や発育期への影響を理解し，自分も友だちも吸わない，飲まないためのメッセージを考え，メッセージカードを作成することができる。また，誘われたり，勧められたりした時に，強い意思で断るせりふを考えることができる。

2．キャリア教育との関わりと評価

(1) 意思決定能力「課題解決能力」

・メッセージやせりふの考え方に従って，自分にとっても，相手にとっても喫煙・飲酒・薬物乱用の防止につながるためのそれぞれの課題を見つけ，メッセージやせりふを考えることができる。

3．指導内容

(1) 導入では，喫煙・飲酒・薬物乱用を防ぐために考えるメッセージや誘われたり，進められたりしたときに断るせりふの考え方を理解する。

(2)展開では，事前に調査したたばこ，アルコール，薬物についてのグループで自分にとっても，相手にとっても防止につながるためのメッセージや断り方のせりふをかんがえる。

たばこ，アルコール，薬物の意識調査結果(メッセージとせりふのグループ分け)

次のような人数でメッセージやせりふを考えた。

たばこ　２８人　　アルコール　１５人　　薬物　５５人

この結果で，子どもたちの意識が薬物やたばこへ多く，メディアで得た情報で予防する必要性を感じ，関心が高いようである。それに変わり，アルコールは身近で，防止への意識が弱いと考える子どもが多いようである。



図３メッセージやせりふの考え方の説明



図４　子どもたちが考えたメッセージ

グループで考えたメッセージやせりふを次に挙げると

薬物乱用へのメッセージ１例

みなさん，『シンナーや覚せい剤』などを知っていますか？これらのものは薬物です。
薬物は体と心に重大な障害を起こしたり，一度吸ってしまうともうやめられなくなり「依存症」になります。
　また，犯罪や事故など社会に対しても重大な問題を引き起こしてしまうので，このような薬物は友だちから誘われて断わらない，好奇心から，面白いことを求める，恐い薬だと知らないなど様々な理由がありますが，どんな場合にしても，薬物の乱用は絶対にいけません。どんな言い方で誘われても，ぼくたちはみんなにこれからの人生をたのしんでもらいたいですから強い意志で断わってください。

たばこを誘われたときの断るせりふ１例

みんなで友だちの家に遊びに行く途中，公園で知っている人に誘われました。
場面１　「みんな，どこに行くの，これ，たばこを知っている。吸うと頭がふわっとして気持ちがいいよ。１本吸ってみる。１本ぐらいならへいきだよ」
あなたは

法律では，１８歳未満は吸ってはいけないし，発ガン作用，運動能力の低下，末梢神経のまひなどの体に害があるから，１本でも絶対に吸いません。

場面２　「こわいの？だれにもわからないよ。だれにも言わないよ」
あなたは

私はこわいから，絶対に吸いません。発ガン作用もあるけど，他にも発育期に身長が伸びなかったり，心臓病になったり，食欲がなくなったり，吐き気がしたり，ニコチンやタールなどの体に大変悪いものが含まれているのでいりません。

場面３　「もう中学生になるんだから，吸ってもいいじゃないの？」
あなたは

だから，さっきから，何度も言ってるじゃないの！ニコチン，タールとか体によくないものが入っていて，がんになったり，心臓病になったり，吐き気がしたり，こんな悪いことがあるのに，吸おうと思う方がおかしいんじゃないの？それに，中学生になっても１８歳未満は吸えないんですよ。まったく。

このように，それぞれのグループがメッセージやせりふに防止への思いを挙げて考えていた。

４，学習の結果

「たばこを吸わない，アルコールや薬物を飲まない」の学習を振り返って
自分自身が防止するためにできる方法として次のことを挙げていました。（１部掲載）

・はっきり，ちゃんと自分できっぱり断って空気に流されてしないようにする。絶対をつけるといやだと聞こえるし，種類などを知っておくも１つの手だてだと思う。あやしいと思ったら断る。
・理由を説明することで，ビールを飲ませようとする人の心も折れると思うので理由を頭の中に叩き込んでしっかり断れるようになりたいです。
・誘われても理由をいい，断る。もし，その誘ってきた人が知っている人なら，薬物について説明してあげ，とても恐いものだということを教えてあげる。そして止めさせる。

・薬物とは程遠いと思っていたけど今までとは違って意識しながらしていく。
・思ったよりも，納得のできる断り方を考えるのは難しかった。もし，そういうように誘われても断りたいと思う。

5.考察

「たばこを吸わない，アルコールや薬物を飲まない」の学習を行っていく中で，子どもたちは，グループでいろいろな意見を出しあい，喫煙・飲酒・薬物乱用についてのメッセージやせりふを考えていた。メッセージやそのポスターやせりふが出来上がるにつれて，子どもたちの防止への意欲が高まってきたようであった。その意識の高まりが防止への実践につながると態度が養われたと思えた。

第４時間目　「誘われたら，君ならどうする？」

「誘われたら，君ならどうする？」では，第３次で，たばこ，アルコール，薬物の３つの内容で，それぞれのグループで作製したポスターを提示しながら，メッセージを伝えていく，内容によっては，ロールプレイングなどをして伝える。また，場面設定をして，たばこ，アルコール，薬物を誘われたり勧められたりすることをロールプレイングで体験する。グループのそのメッセージを聞いたり，せりふのロールプレイングを見たりして，勧められたり，誘われたりしたとき自分だったらどうするかを考えてワークシートに書く。感想を書き，最初の感想と変容しているかを見ていく。すべてのグループのメッセージを聞いた後，自分のまわりの環境で，喫煙，飲酒，薬物乱用の中で遭遇すると考えるものを選び，誘われたときどうするか，自分が考える意思や防止するためにできるめあてを考える。

1．ねらい

・メッセージを聞いたりやせりふを体験するロールプレイングを見たりして交流することで，自分にあった課題を気づき，防止するための自分自身にできることを見つけることができる。

2．キャリア教育との関わりと評価

(1)　人間関係形成能力「コミュニケーション能力」

・喫煙，飲酒，薬物乱用の防止のためのメッセージを考え，交流することで，自他ともに予防できる態度やどのように断るかをロールプレイングで体験することで，誘われたり，勧められたりしたときに自分の意思をしっかり伝え，断る態度の必要性を理解する。



図５　ロールプレイングの体験場面

3．指導内容

(1) 導入では，伝えられたメッセージを聞いて，誘われたときの体験をロールプレイングのようすを見て，防止するためのめあてや誘われたときどうしたらよいか考えることができる。

(2)展開では，

・伝えられたメッセージを聞いて，誘われたときの体験をロールプレイングのようすを見て自分が誘われたり，勧められたりしたときの対処や防止のしかたをしっかり 考えられるようにする

(3)自分が防止するためにできることや誘われたり，勧められたりした時，自分の意思で，どのように対応できるかがわかることができる。

４，学習の結果

「誘われたら，君ならどうする？」の学習を振り返って

子どもたちが防止するための思いが深まりについて，自分にあった断り方を以下のことをあげていた。

（一部を掲載）

喫煙，飲酒，薬物乱用を防止するための思いが深まった内容

・お酒やたばこは身近だし，ちょっとなら，大丈夫だと思っていたけれど，少しでも，もちろん多く飲んだり吸ったりしても影響があるんだと思いました。薬物もテレビとかで，やっていて関係のない世界だと思っていたけれど危険なんだと思いました。
・せりふを決めていても，実際にやるとほとんどアドリブになってしまい，うまく言えなかったので，もし本当に誘われたときは落ち着いてしっかり言おうと思いました。
・もともとたばこ，アルコール，薬物はやらないでおこうとは思っていたけど，あまり詳しくなかったので，この学習で，よりたばこ，アルコール，薬物に対するだめだという気持ちが強くなった。

防止するために自分にできることや断り方の内容

・はっきりと毅然とした態度で相手が納得するようにがんばる。
・法律だけで断るんじゃなくて，今使用したら将来，体にどんな害が残るかすぐに出る害を説明して断る。そして，その誘った人を止めるように説得する。
・薬物では，キャンディと言われても，安全だと確認のないもの以外は絶対に口にいれないようにする。

5，考察

「誘われたら，君ならどうする？」の学習で，喫煙，飲酒，薬物乱用の防止のためのメッセージやそのポスターを伝えることや実際，ロールプレイングで体験したことで，子どもたちは，今までのそれぞれへの思いや考えが変容してきたようであった。また，実際，ロールプレイングを体験した子どもたちは，せりふを考えたときは，断り方がいろいろ考えられたが，ロールプレイングでは，断るせりふが出てこなかって困ったようであった。

Ⅳ．研究の成果と今後の課題

6年の「病気の予防2」の保健学習を学習している中で，たばこ，アルコール，薬物のもつ特徴を知ることから始めた学習からいろいろな知識を習得し，喫煙，飲酒，薬物乱用が与える体や発育期への影響が大きいことを理解できたようであった。その結果，喫煙，飲酒，薬物乱用の防止の手だてとして，メッセージやそのポスターを考え，伝えた。また誘われたり，勧められたりしたときどのような対応をしたらよいかせりふを考え，ロールプレイングを体験した。この，4時間の学習で子どもたちの喫煙，飲酒，薬物乱用への考えがだんだんに変容していったようであった。しかし，実際，ロールプレイングで体験した子どもたちは，せりふを考えたときは，断り方がいろいろ考えられたが，ロールプレイングでは，断るせりふが出てこなかって困ったようであった。これから，中学生になり，行動範囲が広がり，いろいろな経験の場面に遭遇することが考えられる。子どもたちが，この学習で習得したことを活かし，自分の意思をしっかりもって断ることができるかどうかが課題である。

<参考文献>

1，(財) 日本学校保健会　3・4年生から始める小学校保健学習のプラン
2，(財) 日本学校保健会　小学校保健学習の指導と評価
3，小学校学習指導要領解説　体育編
4，教科書　新みんなの保健3・4年　学習研究社